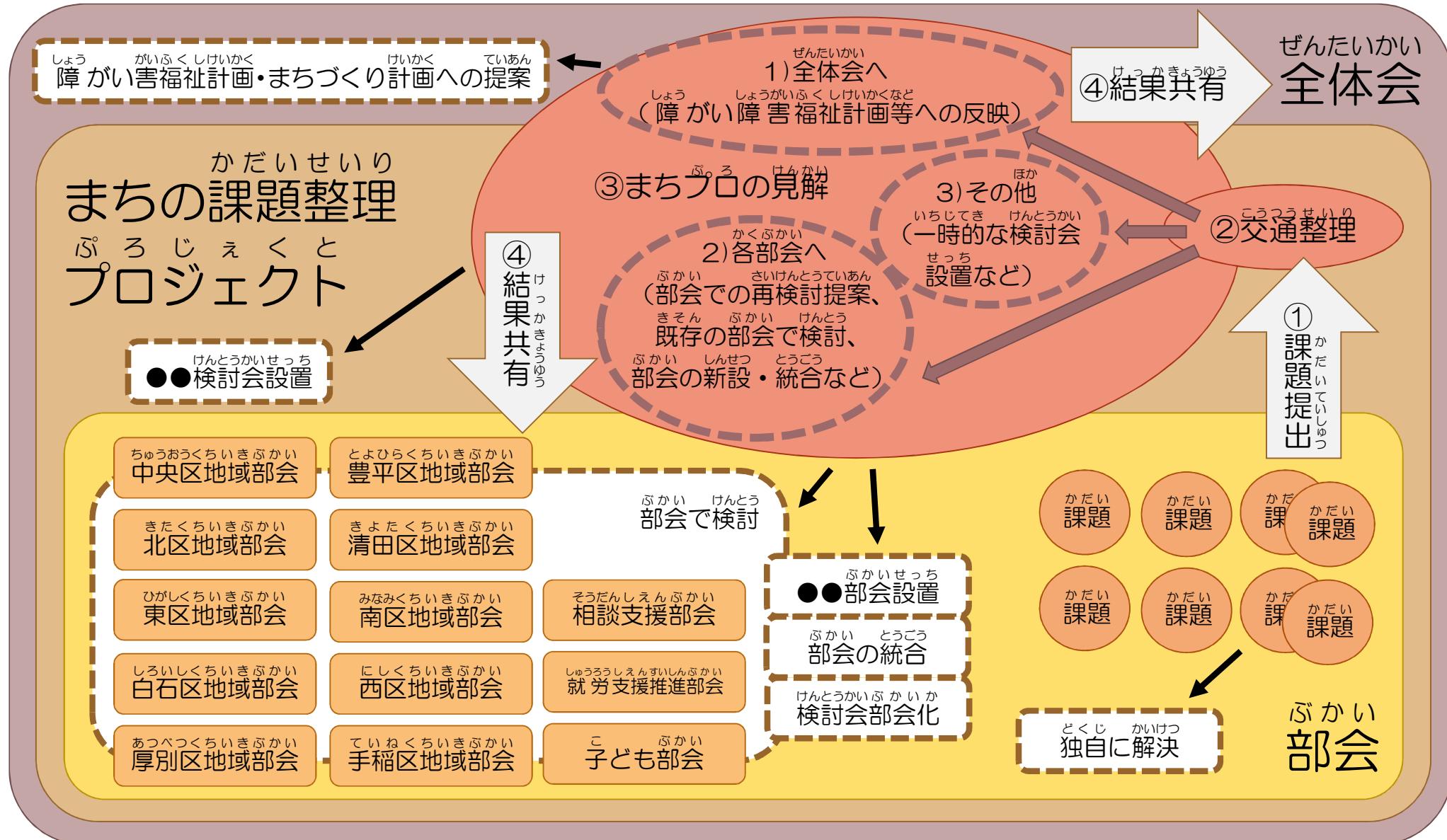


かだい かいきつ む なが 課題の解決に向けた流れ (※)

きょう き かい そしきかん じょううげかんけい あらわ す
協議会組織間の上下関係を表す図ではあります。)



ちゅうおうくちいきぶかい 中央区地域部会

へいせい25ねんど おもじっせき 平成25年度の主な実績

- ★ 学習会、グループワーク等定例会を実施（全9回）
- ★ 事務局会議の開催（全10回）
- ★ 新型市電試乗会の実施
- ★ けんこうフェスタ2013 in ちゅうおうへの出展
- ★ 広報誌「ちゅうwalker」の発行（No29～No37）

かいさいがいよう 開催概要

25年度 かつどうないよう 活動内容	<ul style="list-style-type: none">・ 定例会等の実施<ul style="list-style-type: none">➤ 地域の事業所同士の情報交換・交流➤ テーマを決めて勉強会を開催➤ 地域課題の整理について検討・ 事務局会議にて論点を報告、素案の検討
26年度 かつどうよてい 活動予定	<ul style="list-style-type: none">・ 定例会のテーマをシリーズ化する予定<ul style="list-style-type: none">➤ ライフステージ別（母子、成年、高齢）➤ 障がい別（知的、精神、身体）・ 実践交流会の開催（2回予定）
その他 その他	へいせい26ねんどもくひょう 平成26年度目標

- ・ 障がい児・者の生活全般に関わる法律や制度、関係する機関や資源の理解を深める1年にしよう
- ・ より広く、より深く、顔の見えるつながりをつくろう
- ・ 地域課題を発掘するとともに、その解決に向けて取り組もう

平成25年度実績一覧

か い い に じ ち 開催日時	か い い に じ ち さ か し や す う 参加者数	か い い に じ ち プ ロ グ ラ ム	か い い う が い い よ う 概要
だい28かい 第28回 H25.4.17 ちゅうおうほけん 中央保健センター	めい 64名	ちゅうおうく 中央区ってこんなとこ ちゅうおうく ほけんふくしき いのうえともや ふくししょんかかりちょう 中央区保健福祉課 井上智也 福祉支援係長 へいせい 25ねん どちゅうおうく ちいき ぶかいのかつどう ほうしん 平成25年度中央区地域部会の活動方針 ちゅうおうく ちいき ぶかい つまくら ぶかいちょう 中央区地域部会 妻倉ゆかり 部会長	しょくば きょじゆう ちゅうおうく 職場であり、居住の場である中央区について、ど んな特徴があるか、最近の数字を基に説明。 ぐるーپワークで、数回にわたり話してきた地域 課題を基に今年度の活動方針を発表
だい29かい 第29回 H25.5.15 ちゅうおうほけん 中央保健センター	めい 68名	しょう 障がいのある方の就労を支える「元気」な事業 げんき 元気カフェ、元気ショップ、元気スキルアップ、元気ジョブ (元気カフェ、元気ショップ、元気スキルアップ、元気ジョブ) さっほろしょ 札幌市障がい福祉課(就労・相談支援) 小野寺拓 氏、渡辺敏広 氏	ことし がつ 今年4月よりスタートした障害者優先調達推進法 さっほろしょ や札幌市が行っている就労支援の取り組みについて説明。
第30回 H25.6.18 WEST19	めい 71名	あたら 新しい 新しい病対策の方向性 とうじゅ ～当事者(患者・家族)」から見た改革～ にほん 日本難病・疾病団体協議会 代表 伊藤たてお 氏	きょうさい さっせんとの共催。福祉サービスの対象として あら 新たに難病が加わったことにより、難病及び難病 のかた の方の就労支援について講演してもらう。
だい31回 H25.7.17 ちゅうおうほけん 中央保健センター	めい 49名	トレーニング科学からみた主観的な疲労と生理的な疲労の評価 ほっかいどうだいがく 北海道大学スポーツトレーニングセンター 澤瀬一騎 準教授 けいろうか 軽労化の概念と軽労化技術のご紹介 ほっかいどうだいがく 北海道大学 田中孝之 準教授 スマートスーツの試着体験 だいひょう ㈱スマートスーツ代表取締役社長 鈴木善人 氏	せいかつ 生活や支援の中で身体にかかる負担や疲労に こゝぎ について講義してもらい、負担の少ない支援姿勢を まな 学ぶ。また、スマートスーツの試着体験を実施。
だい32回 H25.9.18 ふくやまみなみじゅう 福山南3条ビル	めい 49名	いりょう 医療観察制度について さくばんほほんさつし 札幌保護観察所 藤井 雅幸 社会復帰調整官	ちゅうおうく 中央区精神保健福祉連絡会と共催。医療観察制度のしくみや社会復帰調整官がどのような役割 は を果たしているか等、保護観察所の機能について学ぶ
だい33回 H25.10.16 ちゅうおうほけん 中央保健センター	めい 44名	しょうちゅう がつこう 小中学校における特別支援教育の現状 まな ～学びの不安・発達障がいについて～ ちゅうおう はやく はなぶん はたつ 中央小学校長 遠藤祐志 氏、柏中学校長 林英雄 氏	とくべつしんがくつきゅう 特別支援学級の設置状況等区内小中学校の特 べつしんきゅう 別支援教育の現状について現役の校長先生が せつめい 説明。
だい34回 H25.11.20 ちゅうおうほけん 中央保健センター	めい 48名	ひがしにほん たいしん さい 東日本大震災からの教訓 ほじん NPO法人 コミュニティワーク研究実践センター 穴澤義晴氏	ひがしにほん た ひがい 東日本大震災から2年半が経ち、被災された障 がい者が、どのような支援を受け生活されている か等を聞く。
だい35回 H26.1.15 ちゅうおうほけん 中央保健センター	めい 58名	ちいき 地域とつながる一歩へ住まい探し しらう ～障がい者が安心して暮らせる住まいを確保するために～ ふじさん ㈱不動産ピック バスセンター前店 三浦啓史 氏、報告者 上神田亜希 氏	ちいき 地域課題からテーマを取り上げ 障がいのある かた 方が部屋を探す時の現状及び当事者の経験について語ってもらう。
だい36回 H26.2.19 WEST19	めい 116名	はつたつ しょう 発達障がいのある方への支援方法 かた なかまの杜クリニック 吉田 匠伸 院長	ちゅうおうく 中央区精神保健福祉連絡会と共催し、発達障がいのある方に対しどのように接していくらよいのか、専門医より講演してもらう。
しんかた し でん 新型市電 たいけん じょうかい 体験試乗会 H25.5.2	めい 20名	しんかた し でん 新型市電の試乗会	ほんかく 本格デビューを前に、障がいのある方を対象にした新型市電車両の試乗会を実施
けんこうフェスタ 2012 inちゅうおう H25.10.5 ちゅうおうくみん 中央区民センター	めい 110名	ちいきぶかい ・地域部会の取組み紹介(パネル展示) やせ ・お休み処の出展 じょう ・障がい者のDVD上映「ちょっと青空」	じりしきんきゅう 自立支援協議会、広報誌や定例会に関するパネル展示。「セイコーマート」「サントリー」より飲物、 ぶい 部会メンバーの作業所よりクッキーをそれぞれ提供してもらい喫茶コーナーを運営。スタンプラリー かいさい 開催
697名			

きたくちいきぶかい 北区地域部会

平成25年度の主な実績

★ 新たに専門のプロジェクトとして子ども部会を発足

★ 学習会を開催 (本会: 4回 子ども: 2回)

★ 会報誌「北の区から」発行 (7回)

★ 交通問題についての課題整理会議の発足

かいさいがいよう 開催概要

25年度

かつどうないよう
活動内容

・ 1か月に1回、運営委員会を開催

➤ 年間でテーマを決めて勉強会の開催を協議、運営

➤ 地域課題について議論、検討

➤ 会報誌「北の区から」発行

・ 1か月に1回、事務局会議を開催

運営会議の事前に論点を整理、素案の検討

・ 1か月に1回、子ども部会会議を開催

➤ 年間でテーマを決めて勉強会の開催を協議、運営

➤ 子どもにかかわる地域課題について議論、検討

・ 交通問題についての課題整理会議の発足、開催 (3回)

学習会の際に実施した交通問題のアンケートに記名でお答えいただいた

当事者の方々をお招きして、直接お話を伺った。

<p>26ねんど 26年度</p> <p>かつどうよてい 活動予定</p>	<p>ねんかん て 一 ま き め て べんきょうかい かいさい きょうぎ うんえい ・年間でテーマを決めて勉強会の開催を協議、運営</p> <p>ちいき かだい ぎろん けんとう ・地域課題について議論、検討</p> <p>ひきつづき こうつうもんたい けいぞくぎろん かだいせいりかいぎ ・引き続き交通問題について、継続議論（課題整理会議）</p> <p>えき きたくない げんちちょうさよてい ・JR駅（北区内）現地調査予定</p>
<p>そのほか その他</p>	<p>しょうさい べっしりょう ごさんしょう ・詳細は、別紙資料をご参照ください。</p>

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 概要

(平成 25 年度 第 1 回)

平成 25 年 4 月 4 日 (木) 18:00~20:00
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 自己紹介

今年度第 1 回目の運営委員会ということで、参加者の自己紹介を行った。

2 連絡事項

- 事務局から以下の 2 点について報告があった。
 - ・北区地域部会の広報誌である「北の区から」について、第 1 号の原稿を資料のとおり事務局において作成した。これから選出される会長の了承を得て発行される予定である。
 - ・3 月 11 日に開催された総会・学習会のアンケート結果を資料のとおり事務局において取りまとめた。結果については、概ね好評だったと考えている。今年度に学習会等を開催する際の参考にしてほしい。
- 和田委員から、3 月に開催された札幌市自立支援協議会全体会について、以下の 3 点について、報告があった。
 - ・議事については、滞りなく終了した。
 - ・北区地域部会からまちの課題整理 PJ へ提出した 2 つの地域課題（「冬季の投票について」「福祉と医療の連携について」）については、PJ での検討が進んでいくような状況にある。
 - ・障害児相談支援事業の名称変更について、各区地域部会からも案を出してもらいたいとのことであった。

3 会長・副会長の互選

会長：サポートセンターれら 和田委員
副会長：トライ夢 居宅介護事業所 紺野委員
以上のとおり、それぞれ選任された。

4 年度計画について

- 今年度の活動計画（特に学習会について、どのような方向性で年間何回開催するのか等）について各委員で協議を行い、以下の意見が出された。
 - ・学習会は定期的にやっていきたい。
 - ・地域課題を出し合える場があるとよい。
 - ・昨年度に検討していた地域課題については、終わりにせずに引き続き検討を深めていくことが大切である。
 - ・「福まち」をテーマにした学習会を行ってほしい。

- ・移動支援から行動援護に移行する過程で様々な課題が出てくると思うので、それを共有できる企画があるとよい。
 - ・単に地域課題を出すだけでは、様々な意見が出て收拾がつかなくなるので、ある程度テーマを絞った方がよいのではないか。
 - ・学習会のテーマについては、参加しやすい仕掛けとして、様々な分野のものにした方がいろいろな事業所が興味を持ってくれるのではないか。
 - ・学習会の開催日については、「第1〇曜日」のように決めてしまった方が、事業所が参加しやすいのではないか。
 - ・学習会の開催ペースは、毎月だと出てきた課題を整理できないと思うので、隔月がよいのではないか。
- 学習会については、概ね隔月で実施し、第1回目は5月下旬から6月上旬までの間に開催すること、また、第1回目の学習会のテーマについては、次回の運営委員会で協議のうえ、決定することが確認された。

5 その他

- 次回の運営委員会は、5月1日（水）に行うこととする。
- 今回は、傍聴者として、以下の2名が参加した。

札幌市手をつなぐ育成会 北・東支部 支部長 深宮 しのぶ
教育施策部 堀 徳子

以上

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 概要

(平成 25 年度 第 2 回)

平成 25 年 5 月 1 日 (水) 17:00~19:00
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 連絡事項

- 「北の区から」について、第 1 号を発行しているので確認を。
- 北区役所人事異動に伴い、菅原さんが出席。事務局のお手伝いを当面谷口さんと二名で行い、徐々に菅原さんにシフトしていく予定である。

2 第 1 回学習会について

日程候補 : 5 月 27 日 (月) 夜間、29 日 (水) 午後・夜間、31 日 (金)、
6 月 3 日 (月) 午後・夜間、5 日 (水) 午後・夜間、7 日 (金) 夜間、10 日 (月)
時間 : 午後 13 時~17 時、夜間 18 時~21 時

内容候補 : 福まちについて

地域課題について

保護観察制度について (去年の地域定着支援センターとの繋がり)

内容について以下の意見が出された。

- ・部会の体制作りを兼ねて、北区での課題を抽出することが第一ではないだろうか。
ある程度、テーマを絞った上で話し合えれば。
- ・時間がないのも現状なので、運営委員内で何かやることが現実的なのではないだろうか。そうなると福まちが良いのでは。
- ・グループワークは 5~6 人の少人数の方だと意見が出やすい。
- ・参加者が事前にわかっているのであれば、地域別に分けるなど工夫し、顔つなぎが出来るのでは。

以上の意見から、第 1 回のテーマは「福まち」で進める事とし、日程調整を含め事務局が調整する事となる。

内容

- ① 福まちについての説明 (社協)
- ② グループワーク～連携や地域についての課題抽出の話し合い

3 地域課題について

昨年度、北区部会からまちの課題整理 P J に提出した課題は以下の 2 点であった事を説明。今後運営会議で協議していく予定。課題に対する認識について、北区部会とは異なる理解をされてしまったため、今後は具体的に事例等も合わせて提出する事

も必要なのではないだろうか。

① 医療と福祉の連携について

- ・障がい者の受け入れ態勢が整備されていない
- ・医療の情報不足
- ・ヘルパーの医療的ケアの研修が充実していない

② 冬期間の投票について

- ・投票所への移動の問題

今後の課題として以下の意見が出された。

- 除雪については継続的な課題である。

4 その他

- 今年度の取り組みについて、以下の提案が出された。

- ・北区役所 1 階に展示されている作業所の製品が数年間変わっていないため、例えば「北の区から」で事業所に展示を勧めてみてはどうか。
- ・24条商店街のお祭り「ノースロードフェスタ」の出店について、現在出店していない事業所にも声掛けをしてみてはどうか。
- ・北区部会として、町内会とつながりを持ちたい。

- 次回の運営委員会は、6月 18 日（火）18 時に行うこととする。

- 今回は、傍聴者として、以下の 2 名が参加した。

札幌市手をつなぐ育成会 北・東支部 支部長 深宮 しのぶ

石金病院 山川 和真

以上

札幌市自立支援協議会 北区地域部会運営委員会 **概要**
(平成 25 年度 第 3 回)

平成 25 年 6 月 18 日 (火) 18:00~20:00
札幌サンプラザ 4 階会議室

2. 第 1 回学習会の結果について

- ・参加 31 名
- ・記録・アンケート結果～別紙
- ・グループの状況～グループワークはお互いの顔が見えていい
事業所の情報交換ができた
東区の取組が聞けて良かった
1 グループ 4 人は少ない など

→この学習会だけで終わらずに、金森次長に今回のことと伝えて行けたらいい
新たな企画で今後も続けていけたら

1. 子ども部会の協議内容について

- ・課題抽出～教育含む関係機関の顔の見える関係ができていない
受診できる病院の紹介難しい など
- ・今後は子ども部会周知のために、8 月下旬に子ども部会学習会開催を検討中
内容は、札幌市にある子どものサービス。就学前を中心にやりたい

→この日の運営委員会で子ども部会学習会開催を承認

3. 第 2 回学習会について

- ・9 月全体会とあわせて開催、時間は午後帯、日時は後日事務局からメールで発信
- ・内容～町内会や民生委員に話してもらう
区を問わず活動の実績ある人に依頼必要
北区内でも思い当たる人は数人いる
東区で町内会と上手くやっている事業所があった、北区では？
あいの里や、札北荘の町内会との連携の話は？
ぼぬーるをつくる時に連町の会長に挨拶に行って「困ったら言って来い」と
→①ぼぬーるの連町会長に事前に中野さんから依頼の打診、または②運営委員のまわり
の町内会情報を集めることで、事務局で検討

5. その他

- ・6／26 市の運営会議と7月地域部会連絡会に和田会長出席予定
- ・今月の豊平区地域部会で医療との学習会が開催される

4. 地域課題について

- ・障害者総合支援法について～学習会アンケートから
- ・障害の福祉マップ欲しい～学習会の内容から
- ・福祉避難所の情報と個人情報の開示について～学習会の内容から
- ・不動産屋との連携～東区地域部会の取組から
- ・パリアフリー（スロープの作り方おかしい）とモール（エレベーターの順番）～雑談から

次回運営委員会 7／16（火）18時～20時 札幌サンプラザ4階会議室

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 **概要**

(平成 25 年度 第 4 回)

平成 25 年 7 月 16 日 (火) 18:00~20:00
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 連絡事項

- 子ども部会川畠幹事から、現在の子ども部会の活動状況について、8月 21 日 (水) に第 1 回目の学習会を実施する予定との報告があった。また、広報誌「北の区から」にて学習会の参加募集を行いたいとの提案があり、添付の広報誌「北の区から」第 3 号 (案) に基づき検討した結果、了承することとなった。

2 全体会・第 2 回学習会について

- 講師をお願いする予定の屯田の連合町内会長に対しては、つながりのある中野委員から依頼をしてもらい、了解が取れれば、改めて会長・事務局で正式な依頼を行う。
- 構成は、前回と同様、全体会+学習会というスタイルとし、学習会は講演の後に参加者同士が話し合える時間 (グループワーク) を設けることとする。
- 和田会長から、北区地域部会のイベントへの参加者をより一層増やすために、どのような周知宣伝活動を行っていけばよいか運営委員からのアイデアを募りたい旨の提案がなされた。

3 地域課題について

- 和田会長から、市自立支援協議会の活動状況について、以下のとおり報告がなされた。
 - ・「さっぽろ障がい者プラン」の改定作業に当たり実施するアンケートでの実態調査について、アンケートの調査内容に関して運営委員の意見を聞くこととなると思うので、その際はご協力願いたい。
 - ・「まちの課題整理 P J」について、東区から提出された課題である「福祉と教育の連携」に関する動きとして、P J に「私的」(公式だと参加しにくい人への配慮のこと。) 勉強会が設置されることとなり、今後メンバーの人選が行われる予定である。
 - ・白石区地域部会の取組として、白石区内の事業所を一覧にしたガイドブックを北海道の助成金を活用して作成している。
 - ・中央区地域部会の取組として、障がいのある方を対象とした市電の新型車両の試乗会を行った。
 - ・東区地域部会の取組として、障がいのある方の住まいをテーマに不動産業に携わる人を講師に招いて学習会を実施した。
- 地域課題について各委員で協議を行い、以下の意見が出された。

- ・間近になっている選挙について

障がいのある人たちは投票に行くのが難しい

期日前投票所が北区内に2か所だけであり遠方の人たちがいる

ショッピングセンターなどに投票所ができるとバリアフリーの面からもよい

投票所の職員の障がいのある人たちに対する対応にはばらつきがある（職員全員が福祉に精通しているわけではない）

- ・ごみ収集について

障害でごみ出しが困難な人たちが使えるサービスである「さわやか収集」があまり知られていない

- ・福まちについて

福まちを進めていくうえで重要である障害に関する個人の情報は、「個人情報の保護」が壁になってなかなか地域で集約できない

精神障害のある人たちは、周囲に知られるとそこに住めなくなるという思いからか、知られたくないと思っている

福祉サービスにつながっていない人たちは、大規模災害などの非常時に支援できる人がいないのでは

地域部会の活動を通じて、町内会の人たちにも参加を求めるなど、町内会とのつながりを強めていけたらよい

4 その他

- 事務局（北区役所）から、保健福祉課保健支援係において「自殺予防対策事業」を実施するに当たり、イベントを北区地域部会とタイアップ（共催）して実施し、イベントの周知宣伝を北区地域部会にも協力を願いたい旨の依頼があったことが報告された。北区地域部会にとっても活動の周知の機会が得られる等のメリットがあるため、保健福祉課保健支援係からの依頼を引き受けることが了承された。
- 次回の運営委員会は、8月20日（火）に行うこととする。

以上

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 概要

(平成 25 年度 第 5 回)

平成 25 年 8 月 20 日 (木) 18:00~19:30
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 連絡事項

○子ども部会川畠幹事から、8月21日の第一回学習会の内容、申し込み状況の報告があった。第一回は乳幼児期について、参加者は50~60名程度。グループワークでは9グループに分かれて行う予定である。

2 全体会・第2回学習会について

○日程は9月30日(月) 14時~16時
○全体会司会：いちょうの会鎌田さん(本日欠席の為、後日依頼する)
○連合町内会会长坂田氏を和田会長と岡田主査で訪問し、学習会の講師依頼をし、了解を得る。講義形式は難しく、座談会形式で行う。
○進行役：和田会長／参加者：連合町内会会长、ぼぬーる中野さん、今野副会長
○「北区の区から」を日程等確定次第発行予定。
○講師への謝礼・交通費については事務局で話し合う。

当日スケジュール

13:00~会場設営、資料配布など
13:30~会場
14:00~全体会開会 活動報告(会長より)
14:15~学習会・座談会(40分程度)
15:00~休憩
15:10~グループワーク (参加人数によりグループ分け)
15:50~閉会・アンケート記入
16:00~片付け

3 地域課題について

○今野副会長より「移動困難者の公共交通機関の利用について」別紙を参照し、車いす利用者がJRを利用する際、駅員の配置人数により介助の対応が出来ず、最寄り駅を利用出来なかった事例について説明があった。
○JRのみではなく車いす利用者が他の公共交通機関でも以下の不便な事がある。
・飛行機：電動車いすはバッテリーの問題で乗れない事がある。
・バス：事前の予約が必要である。
・JR：昇降機がついているのに利用出来ない事がある。

○地下鉄は利用者が増え、スムーズになり、駅に着いてから駅員に声を掛けねばよい。利用する人が増えると改善されていくケースもある。しかし早急な改善は難しく、「便利なところに住みたい」といった場合、地下鉄沿線を希望する場合が多く、利用する公共交通機関に偏りがあるのが現状である。

○北区地域部会が取り組める事として、

- ①北区内にある各駅の状況を把握する。(拓北駅、あいの里駅など)見学する。
- ②北区内にある無人駅を把握する。
- ③JRに実際の対応方法を聞く。(マニュアル通りの対応であったか)
- ④移動支援事業所に情報収集を行う。(実際に支援していて感じている事等)
- ⑤差別解消法、北海道条例について学ぶ。

以上についての取り組みについて、事務局で進め方を検討する。

○今回事例を提供して頂いたご本人には状況を隨時伝えていく。また北区部会の取り組みについてはDPIに報告していく。

4 その他

○次回運営委員会は、9月17日(火)18時に行うこととする。

○札幌市自立支援協議会運営会議があり、会長が参加出来たら報告する。

以上

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 概要

(平成 25 年度 第 6 回)

平成 25 年 9 月 17 日 (火) 18:00~20:00

札幌サンプラザ 4 階会議室

1 こども部会の協議内容について

現在、学習会後のアンケート結果を集計中
次回イベントなどについて検討している

2 全体会・第 2 回学習会について

- 学習会はパネルディスカッション形式
- 議論したい、引き出していく内容
 - 地域とのつながりを築くきっかけにしてきたい
(全体進行: 鎌田さん)
 - 確認事項
 - ・後半のグループワークのためのグループ分けが必要
 - ・参加申し込み状況で検討していく
 - ・アンケートについて
 - 前回と同じものを利用
 - ・質問→運営委員が積極的にしていく (会長から運営委員に質問をふっていく)
 - ・盛り上がりに欠けるときは全員で盛り上げる。(町内会長に負担がかかりすぎないように)
 - ・座談会に子ども部会の川畑さんにも参加してもらってはどうか
 - ・今回の研修会を開催するにあたっての経緯について説明する
 - 会長から、北区地域部会の活動報告後、説明する
 - ・座談会方式だと、地域の人も話しやすいのではないか

3 地域課題について

- あいの里教育大駅、拓北駅を会長が見て、話をしてきた。
 - ・拓北駅
 - 朝の始発はアルバイトの駅員が 1 名のみ配置。
日中は、アルバイトの駅員(男性 1 名)と社員の駅員(男性、女性各 1 名)の配置
札幌方面行のホームには、スロープがついているが、あいの里方面行のホームには
スロープなく、段差が多い
バリアフリーなど以前の古い造りの駅の印象
駅の構造と、人員体制の状況からみると、今回の対応は仕方ないように感じる。

- ・あいの里教育大駅

→エレベーター2つ（あいの里方面、札幌方面両側に設置）

駅員はたくさんおり、対応も丁寧だった

しかし、他の駅に応援にいくことは不可能との話だった（配置されている駅を守る必要があるためとのこと）

駅員の対応は「また来たか」という対応だったため、他の団体等からの要望などもきているのではないか

今回の対応については、マニュアル通りというか、「こういう対応します」という反応だった。構造的にも、人員配置的にも難しいという反応。

○建物を建て替えることは難しいが、人員配置の工夫をしてもらえないか（フリー駅員の配置など）

○JRよりも、市電や地下鉄の方が利用しやすいと思うことがある（それぞれに課題はあるが）特に地下鉄は、事前に利用するための連絡も必要なく、自分の都合や天気などによって行く行かないの選択がされること、駅員が同行しているヘルパーではなく、本人に説明をしてくれたり、聞いてくれたりするようになってきていることも、利用が多くなる要因

○北区内のJRの駅

→新川から、あいの里公園駅まで、その内太平駅、百合が原駅、あいの里公園駅は無人駅

札幌駅、新琴似駅、新川駅、あいの里教育大駅以外は、駅の構造が古く、利用は不便かもしれない

拓北駅、篠路駅はJR北海道ではなく、子会社で経営をしているという情報もあり

特に篠路駅は、迎えのホームにいくだけで1キロ近くあり、段差も激しい

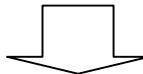
○これから北区に引っ越しをして住もうと考えている人のためにも改善策を考えていきたい

○車いすの人だけではなく、高齢の人にも不便ではないか

○東京に行った際に交通機関を利用したが、サービス精神が高く、とても丁寧に対応してもらえた

○北側は新しい家も増えて地域が活性化している

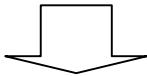
○拓北駅から拓北養護学校へ行く道の整備も必要性を感じている



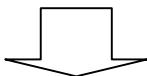
- ・今後、もう少し課題を掘り下げるために、プロジェクトチームを立ちあげていったらどうか

- ・実際の現場をみると、聞くのでは違う

- ・差別解消法との兼ね合いについても議論していきたい



- ・北区の現状と課題を整理して発信する必要あり
- ・他区（JR が通っている区）や他事業所でも同じような問題を抱えていないか、発信していったらどうか



プロジェクトチームの立ち上げを具体化していく

このために・・

⇒全体会のアンケートで、呼びかけをしてみる

- ・アンケートに今回の地域課題のような経験などがないか、項目を追加して情報収集する
- ・会長の活動報告の時間で、今回の地域課題についての情報提供を全体にし、アンケートへの記入を促す
- ・「さしつかえなければ」で、氏名の記入欄もつくる（同じような課題をもっている人の共有が今後必要になったり、プロジェクトチームへの参加等も考えていきたいため）

○地域部会は当事者だけでもなく、支援者だけでもなく、様々な立場の人たちが集まった場であることを意識し、一人の困ったから、障害がい種別や年齢問わず、皆にとっての課題として解決に向けて話し合いができるようにしていけたらいい

4 その他

○実態調査について

問 1 7 の災害時の個人情報の提供について、情報提供の度合いがわかりづらい→会長から本庁に質問内容について問い合わせをする

他区で災害時のマッチングをしているところもあるため、そういう場合が個人情報を情報提供しているという解釈は可能かと思うが、現状で情報提供していると解釈していいか不明

○まちの課題解決プロジェクトについて

東区地域部会からあがつた「ヘルパーの技量について」という内容で地域部会に今後アンケート等がくる

○連絡事項

地域活動支援センターいちょうの会が、いちょうの会へ名称変更

○次回運営委員会は、10月 22 日（火）18 時から行うこととする。

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 概要

(平成 25 年度 第 7 回)

平成 25 年 10 月 22 日 (火) 18:00~20:00
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 連絡事項

- 子ども部会の協議内容について以下のとおり報告があった。
 - ・ 前回学習会のアンケート結果を集計。反響が大きく、好評だった。
 - ・ 新光小学校の先生が部会メンバーに加わることになった。
 - ・ 第 2 回目学習会「学齢期の支援」については、12 月上旬～中旬に実施したいと考えており、日程を調整していく。
 - ・ 市の子ども部会については、11 月下旬に学習会が予定されているほか、障害児の短期入所受け入れ先の実態調査や、幼保連と連携した活動などが取り組みとして進められている。
- 岡田主査から、自殺対策事業とのタイアップ行事について連絡があった。
 - ・ 12 月 10 日 (火) 18 時 30 分より、区民ホールにて講演会を予定。テーマは「自傷行為・過量服薬を繰り返す患者への対応」、木の花メンタルクリニック・新田医師へ講師を依頼している。
 - ・ 動員予定は 50~100 名。関係者への参加呼びかけなど協力いただきたい。「北の区から」においても記事を掲載し、講演会の周知を図る。

2 全体会・第 2 回学習会の結果について

- アンケート集計結果については、次回学習会に生かすこととした。
- 今後の予定としては、3 月の総会の前に、1~2 月にかけてもう一度学習会を行いたい。学習会の内容については今後の運営委員会でつめていく。

3 地域課題について

- 交通機関の問題について、以下のとおり意見交換がなされた。
 - ・ 障害者当事者の意見だけでなく、支援者の視点も踏まえて、北区部会としての独自性を出しながら課題整理をしていければよい。
 - ・ 身体障害者だけでなく、精神障害者や知的障害者ならではの困りごともあるはず。
 - ・ 視覚障害者、特に中途失明者は、交通機関の利用はもちろんのこと、移動そのものが困難。
 - ・ スマホを見ながら歩行する人が増えている。乗車マナーが悪い人が多い。
 - ・ 駅員によって、乗客を上手にさばき、車いすのスムーズな移動を助けてくれる人と、全く配慮してくれない人がいる。
 - ・ 交通機関各社の研修カリキュラムはどのように組まれているのだろうか？もっと障害者への理解を深めてもらいたい。研修への参加も、課題取り組みの一つとし

て有効ではないか。

- ・ 交通機関に関して障害者が困っている事柄を具体的にすることで、差別解消法の理念の具現化にもつながっていくのではないか。
- 今後の具体的な取り組みとして、以下のとおり決まった。
 - ・ 課題整理プロジェクトを発足。メンバーは、事務局及び会長・副会長とする。
 - ・ 各運営委員は、身の回りの当事者や事業所などから、交通に関する困りごと・感じていることなどを情報収集し、次回運営委員会で聴き取った事柄を報告する。
 - ・ 北区内居宅事業所の集まりである「居宅の集い」や、複数事業所が参加している「S A S」などに対し、交通機関に関する課題を投げかけてみる。交通機関に関する課題だけでなく、北区部会との様々な情報共有や連携ができていければよいのではないか。

4 その他

- 次回の運営委員会は、11月18日（月）に行うこととする。

以上

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 **概要**
(平成 25 年度 第 8 回)

平成 25 年 11 月 18 日 (月) 18:00~20:00
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 連絡事項

- 北区地域部会こども部会の協議内容について
 - ・世話人会のメンバーに、新光小学校支援学級の先生に声をかけ、1名追加。次回学習会で講師としてお話しいただく予定。
 - ・こども部会でも地域課題について話し合うことになった。こども部会の概要録を運営委員会へ提出していただき、検討していく。
 - ・第2弾学習会を開催予定
- 北区障がい者支援関係者研修会について
 - ・参加者を募集中。
現在 32 名申込。締め切りが 11 月末となっているため、呼びかけを継続する。
- 障害者週間の街頭啓発について
 - ・12月3日 (火) 実施。9時40分に北区役所第4会議室集合。
相談室と地域部会より若干名参加予定。参加者が決まり次第、岡田主査へ連絡。
配布物品を持って、北24条駅周辺にて啓発する予定。

2 広報誌「北の区から」(第5号)について

- 「北の区から」(第5号)発行について
 - ・内容:学習会の報告、研修の呼びかけ、こども部会勉強会の呼びかけ
- 「北の区から」(第6号)について
 - ・内容:全体会の結果報告、来年度の運営委員の募集
 - ・発行:年内を予定。

3 来年の活動について

- 来年1月から3月の予定について
 - ・こども部会第3弾学習会と総会・学習会(3月)が決まっている。
学習会の内容や開催時間について次回検討予定。
 - ・運営委員会で学習会を開催するかどうか。
地域課題を検討する時間も必要で、そちらをメインに考えていくと良いのでは。
検討していく中で必要があれば、ミニ学習会を開催してもよいのでは。

4 地域課題について

- 交通機関の問題について、以下のとおり意見交換がなされた
 - ・ヘルパーステーションつばさ(舟根さん)より、公共交通機関や道路について、事業所内でヘルパーさんへ聴取してくださった内容が報告された。

- ・JR は車輌によって、車いすのスペースが異なり、多目的室などもあるが、利用できなこともある。
- ・各事業所にどういう考え方聞いてみたい。
- ・当事者が現状を把握し、どうやりくりしているのか聞いてみたい。通勤で利用している当事者は、毎日使っているので慣れており、当たり前に利用している。
- ・市電を利用する際は前日に予約が必要など、乗車予約が必要なため、面倒。手続きについて現状を把握する必要がある。それぞれの機関で理由があるのでは。すべての機関に聞くのは大変なため、的を絞る必要がある。
- ・交通問題に取り組んでいる団体（交通権を考える会、札家連、DPI、消防など）の話を聞いてみたい。
- ・問題はたくさんあるので、落とし所を考える必要がある。
- ・当事者団体から要望書を出したりしており、声を上げている。それ以外に支援者側からも声が出るといい。障がい者だけでなく、高齢者やベビーカーを利用している人など、みんなが使いやすくなることが大切。
- ・北区部会として取り組めることと、札幌市として取り組むことを分ける必要がある。札幌市へ上げる場合も、北区内でしっかりと整理する必要がある。
まずは情報の収集が必要。課題だけでなく、メリットも収集できると良い。どのように収集していくかは要検討だが、収集と同時に発信もできると良い。白石区ではホームページやフェイスブックを立ち上げている。北区でも可能か検討。

○ 視覚障がいの方より相談

- ・いちょうの会へ視覚障がいの方が 8 名相談に。視覚障がいの方向けの事業所がなく、行き場がなくなり、ひきこもりになっている人が多い。視覚障がい者向けの事業所を共同で立ち上げたい、などの話があった。次回まで情報収集していただき、再度お話をいただくことに。

○ 除雪について

- ・ザクザクした道を何とかして欲しい。
土木事業所の方に言って、改善されないものか。

5 その他

○ 札幌市自立支援協議会（11月15日開催）

- ・各区の前期活動報告
- ・相談、こども、就労、まちの課題の各部会の報告
- ・市より情報提供
- ・札幌市身体障がい者相談支援員が各地域部会に参加希望（北区には10名）
近日中にホームページへ掲載される予定

○ 次回、運営委員会について

12月17日（火）18：00から行うこととする。

以上

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 概要

(平成 25 年度 第 9 回)

平成 25 年 12 月 17 日 (火) 18:00~19:50
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 連絡事項

○子ども部会の協議内容について

- ・第 2 回学習会 12 月 16 日開催 46 名参加
- ・前回より参加者が減少。学校の先生の参加がなかったが広報の仕方や時期的なことが要因ではないだろうか。
- ・グループワークは 30 分取ったが、時間が足りなかった。
- ・口頭で研修への意欲を伝えてくれてもいるので参考にしたい。
- ・地域課題についても次回から抽出していく。
- ・世話人会としては、来年度のことについて話し合い、北区にある資源を整理していくことになっている。

2 広報誌「北の区から」(第 6 号)について

○来年度、運営委員の募集の掲載している。締切日は次回運営委員会前の 1 月 17 日(金)にする。

○現運営員の留任についても次回話す予定。

3 まちの課題整理PJからのアンケートについて

○アンケート用紙配布。東区地域部会が平成 22 年度から取り組んでいるヘルパーの技術向上について。

質問①北区部会としては取り組んでいない。

質問②学習会はいろいろやっている。(ヘルパーに限らず)

質問③居宅の集いがあり、今年 6 月までは月 1 回、それ以降は半年に 1 回、有志が勉強会に集まっていた。目的がなくなってきた事や思いを持った人達がフェードアウトしていったため、消極的な集まりになっている。

質問④スキルアップというよりガイドヘルパーや医ケアといった資格を取れる研修であれば、事業所として参加させやすい。

○ヘルパーについて

- ・ガイドヘルパー、医ケアの研修がどの程度、受けられているのか? 利用者からの要望は増えているが、事業所は人材不足で受けられない状況。
- ・ヘルパーの募集をかけても応募がない。技術向上より人材確保が優先し、その後技術の向上という順番である。
- ・医ケアの研修が少なく、出来るヘルパーが限られている。

- ・地域生活へ移行する制度が整っているが、事業所や人材が整っていないため、需要と供給のバランスが崩れている。
以上、次回運営委員会でもアンケートについて協議する。

4 来年の活動について

- 3月の総会と同時に使う学習会について
 - ・参加者を増やすために来てもらいやすい時間帯に開催時間の変更を検討。
区民センターの時間枠：13:00～17:00（午後）、18:00～21:00（夜間）のどちらかにする。
- 学習会の内容について
 - ・“地域で暮らす”というのが今年度の大きな流れであった。なるべく外れないようなテーマを検討。
 - ・他区の不動産屋を呼んで講演が多い。
 - ・来月検討する。
- 来年度の活動については今年度のメンバーで計画し、引き継いだほうが来年度のメンバーに負担が少ないのではないか。
- 来年度、区民センターが耐震工事に入るため、場所の確保が難しくなることが予想される。地域の会館を利用する方法もあるのではないか。

5 地域課題について

- 課題整理会議のメンバーは今回の交通問題に関しては事務局と運営委員から構成する。ヘルパーステーションつばさの舟根さんに快諾して頂く。整理し、草案を運営委員に提出し、協議して貰う。

6 その他

- 次回運営委員会は、1月21日（火）18時に行うこととする。運営委員会後、新年会を開催。
- 子ども部会の学習会の日程については世話人会で協議する。

以上

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 概要

(平成 25 年度 第 10 回)

平成 26 年 1 月 21 日 (火) 18:00~20:00
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 連絡事項

- 子ども部会の協議内容について以下のとおり報告があった。
 - ・ 第 2 回目学習会「学齢期の支援」について、グループワークが非常に盛り上がった。学校に周知していたものの、学校からの参加者がいなかつたのが残念だった。今後の広報などが課題。
 - ・ 第 3 回目学習会は「高校から社会へ」を予定している。また、学習会準備と並行して、豊明養護高等学校の二本柳先生を子ども部会メンバーに加わってもらうよう打診している。

2 平成 26 年度北区地域部会運営委員の申し込み状況について

- 今後の委員について、以下のとおり報告及び提案があった。
 - ・ 現時点で新規の申し込みは来ていない。
 - ・ 25 年度の運営委員に関しては、引き続き委員を引き受けていただきたいと会長より打診があった。
 - ・ 北区内にある規模の大きい法人などに対し、個人ではなく、法人単位で運営委員を引き受けていただくよう依頼してはどうか。伝手を生かして打診したあとに正式に文書で依頼するのが望ましい。

3 まちの課題整理 P J からのアンケートについて

- ヘルパー技術向上に関するアンケートについて、前回運営委員会で意見交換された内容に以下の事柄を加えたうえで、北区部会としても課題に取り組んでいきたい旨を会長がまとめ、回答することになった。
 - ・ 人材確保は急務の課題。市全体で取り組む必要がある。
 - ・ 道主催の研修だけでなく、市も事業所の実情を把握したうえで研修を充実させてほしい。

4 平成 25 年度総会について

- 以下のとおり会長から提案があり、意見交換がなされた。詳細については今後協議していく。
 - ・ 3 月頃に総会の開催を予定。今回は夜間の時間帯に実施したい。
 - ・ 土畠 智幸医師へ講師を依頼し、在宅医療をテーマに講演をお願いしたい。
 - ・ 講演会テーマについては、誰をターゲットにするかで切り口が変わってくる。支援者向けの講義のほかにも、利用者の方々を対象としたものを検討していくこと

も必要ではないか。

5 地域課題について

- 課題整理会議のメンバーより、以下のとおり報告があった。
 - ・ アンケートに回答いただいた方への聞き取りを2月17日(月)に実施する。
 - ・ 交通機関は、対象をJRに絞って検討していく。
 - ・ 北区内のJR駅の実態を調査したいので、運営委員のメンバーに関しては、今後聞き取り調査の協力をお願いしたい。

6 その他

- 鎌田さんより、視覚障がいの方々の受け入れ相談について報告があった。今後動向があれば再度情報提供いただく。
- 次回の運営委員会は、2月24日(月)に行うこととする。

以上

札幌市自立支援協議会 北区地域部会 運営委員会 **概要**
(平成 25 年度 第 11 回)

平成 26 年 2 月 24 日 (月) 18:00~20:00
札幌サンプラザ 4 階会議室

1 連絡事項

・**ワンオールについて**

札幌市自立支援協議会事務局をになつてゐるため、各地域部会に参加してゐる。北区は荒川さんが今後参加予定。

・**こども部会の協議内容について**

豊明高等養護学校二本柳先生が世話人に加わつた。

5 月の連休明けに学習会を開催予定。(こども部会 世話人会 概要参照)

・**市自立支援協議会の活動状況について**

2/20 会長が事務局会議に参加。まちプロの課題状況を配布された。→運営委員に配布。

3/27 (木) 18:00~21:00 札幌市自立支援協議会全体会開催予定。

内容：協議会について考える (ワンオール林氏) +まちプロと各部会の報告

傍聴希望者は会長に連絡する。できれば早めにする。(遅くとも 2~3 日前)

2 平成 25 年度北区地域部会総会について

○稻生会 院長土畠 Dr の講演。土畠 Dr から、学習内容と日程の提案あり。

→「北の区から」原案参照

3/26 (水) 18:30~20:30 「困難を抱える人々とともに、よりよき社会をつくる

～障害児・者とともにつくる医療・福祉・介護～」

障害の害は、医学モデルではなく社会モデルで捉えているため、あえて漢字を使うよう にしているとのことで漢字になつてゐる。

時間配分：1 時間程度学習会、残り時間で活動報告 (会長から)、運営委員の選任を行う。

運営委員：三浦委員が退任する。その他の委員は留任する。新しい委員も加わる予定。

○「北の区から」の内容確認→明日メールにて一斉送信予定。(岡田主査)

○総会周知について、各運営委員で行っていく。

3 北区課題整理会議の協議内容について

アンケートに記名してくれた方たちを呼び、話をきいた。→課題整理会議概要参照

「チェックシート」の内容確認→特記の部分に駅員さんのことや、調査を行つた委員が 気づいたこと等を記入する。

- 「チェックシート」をもとに、北区内の各駅へ運営委員が行き、調査する。



有人駅の場合は、駅員さんに調査の協力依頼をする。

北区地域部会運営委員の立場で調査する。

調査の主旨説明→障がいのある人がJRを利用するにあたって情報収集しているため協力依頼をしたい折。

改札の中まで入って調査をしてくる。(無人駅や入場券が必要な駅はポケットマネーで)

写真(チェックシートの有に○をつけた部分、スロープや昇降機、エレベーターなど)



今年度中(3月中)にチェックシートと写真を会長宛てにメールで送る。

→チェックシートのデータと、会長のアドレスは、広報誌と共に岡田主査から運営委員に一斉送信する。

- 各駅の調査分担について

札幌駅→つばさ・会長・区役所(岡田主査)

新川駅→いちょうの会

新琴似駅→会長

太平駅(無人駅)→はれそら

百合が原駅(無人駅)→たまりばふたば

篠路駅→ぼぬーる

拓北駅→相談室ぽらりす

あいの里公園駅(無人駅)→北区役所

あいの里教育大駅→相談室つぼみ

4 地域課題について

まちプロの課題整理状況(別紙)をもとに意見交換。

ヘルパー育成について

・以前の運営委員会で、ヘルパーの人材不足と、イメージの悪さがでていた。最近、ヘルパーの資格を取得できる学校の先生と話をする機会があり、その学校と北区地域部会で、学生の体験学習などを仕掛けられないかと考えている。学校の先生とももう少し話をしてみようと考えている。(会長)

・実習生の受け入れを事業所でした際、ヘルパーについては、高齢者介護や車いすを押す等のイメージしかない。障がいヘルパーの認知度を上げる活動を北区地域部会として取り組めないか。専門性の高いヘルパーの仕事だが、研修も少ない。(はれそら)

- ・学校でも普通級と特別支援学級の交流もなく、障がいをもった人との関わり自体少ない。
- ・報酬の低さ、給与の少なさ（ヘルパーの仕事での生計を立てることの難しさ）も課題ではないか（ワン・オール）
- ・事業所の近くの学校も、高齢者や保育園にはボランティアに行くが、障がい者事業所にはボランティアにこない。
- ・専門性の高いヘルパーだが、孤独な仕事であり、振り返りができるような環境の確保も必要なのでは（研修という形？）
- ・事業所同士の連携や地域の人をどう巻き込んでいけるかも課題ではないか
- ・相談支援事業所の基幹センターのような役割がヘルパー事業所にもあったらいいのではないか。
- ・北区のヘルパーが、実際に話すような場が必要と思っているのか、ヘルパーが続かない理由（離職が多い）は何か、知る必要があるのではないか。今のヘルパーさんを減らさないためにも知る必要があるのではないか。

引き続き、ヘルパーの人材確保や質の確保等について、意見交換をしていく。

5 その他

次回運営委員会は、3月24日（月）18時から行うこととする。